

くさのクローバー新聞

薬について Q&A

Q、1日3回の薬を1日2回に変更できますか？

A、薬の投与回数は決まった回数での内服が好ましいです。原則として、内服回数の変更はできませんが、内服のタイミングをずらすことは可能です。保育園などで日中に内服させられない時は、昼の内服分を帰宅した後(夕方)に、夕食後の内服分を夜寝る前などにずらす、ということも検討できます。

Q、こどものかぜに市販薬を使ってもいいですか？

A、厚生労働省の通知により、2歳未満の乳幼児には医師の診察を優先することになっています。2歳未満では特に安易に市販薬は使用せずに、医師の診察を優先しましょう。



Q、食後に服用の薬をなかなか飲んでくれませんん？

A、食後にこだわらず、飲ませることを優先してかまいません。乳児期は、薬を飲ませるタイミングにこだわらず、決められた量をきちんと飲ませることが優先されます。食後だと、薬を飲んだ後に吐いてしまったりすることもあるため、むしろ食前に飲ませるほうが失敗はないと思います。

Q、授乳中はママは内服薬を使わないほうがいい？

A、ほとんどの薬は母乳中に分泌されますが、その量は非常に少ないことがわかっています。赤ちゃんに影響する可能性は低いため、母親の体調を安定させるために必要な薬は使用することも大切です。自己判断せずに、まずは医療機関で相談してください。



院内における新型コロナウイルス 感染症対策チェックリスト



当院は新型コロナウイルス感染症対策
チェックリストに沿った対策を実施しております！

感染症対策実施 医療機関



当院は新型コロナウイルス感染症対策
チェックリストに沿った
対策を実施しております。

日本医師会

協力：厚生労働省

くさの耳鼻咽喉科・小児科

医療法人フースト
くさの耳鼻咽喉科・小児科

〒843-0001

佐賀県武雄市朝日町大字甘久

担当：石丸 ・ 山中

- 職員に対して、サーナカルマスクの着用、手指衛生を適切に実施しています。
- 職員に対して、毎日(朝、夕)の検温等の健康管理を適切に実施しています。
- 職員が身体の不調を訴えた場合に適切な対応を講じています。
- 患者、取引業者等に対して、マスクの着用、手指衛生の適切な実施を指導しています。
- 発熱患者への対応として、事前に電話での受診相談を行う、または対応できる医療機関へ紹介する等の対策を講じています。また、発熱患者を診察する場合には、時間的または空間的に動線を分けるなどの対策を講じています。
- 受付における感染予防策(遮蔽物の設置等)を講じています。
- 患者間が一定の距離が保てるよう必要な措置を講じています。
- 共用部分、共有物等の消毒、換気等を適時、適切に実施しています。
- マスク等を廃棄する際の適切な方法を講じています。

日本医師会
Japan Medical Association

協力：厚生労働省